

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3185774号
(U3185774)

(45) 発行日 平成25年9月5日 (2013.9.5)

(24) 登録日 平成25年8月14日 (2013.8.14)

(51) Int.Cl. F 1
A 4 7 G 33/00 (2006.01) A 4 7 G 33/00 E
A 6 3 H 3/52 (2006.01) A 6 3 H 3/52 Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 書面 (全 7 頁)

(21) 出願番号 実願2013-3609 (U2013-3609)
 (22) 出願日 平成25年6月7日 (2013.6.7)

(73) 実用新案権者 502348992
 株式会社祐月本店
 茨城県水戸市末広町2丁目2番10号
 (72) 考案者 和田 由美子
 茨城県水戸市自由が丘1丁目6番地

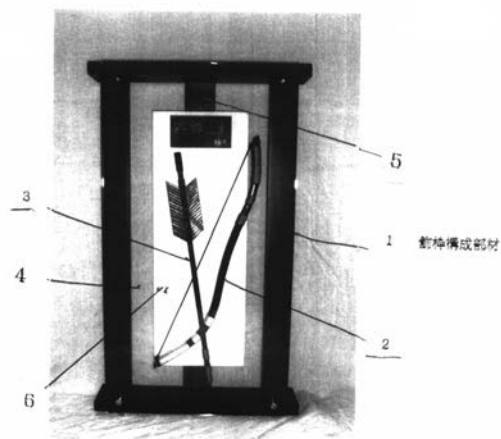
(54) 【考案の名称】 破魔弓飾り

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 正月及び五月節句に飾る破魔弓飾りであって、室内の壁面や長押等に掛架して好適であり、簡単構造にして斬新性を発揮する破魔弓飾りを提供する。

【解決手段】 飾棒構成部材 1 と、該部材の内部にセットされる弓 2 及び矢 3 と、により、大略構成され、飾棒構成部材の前部には透明性アクリル樹脂板によって構成される透視部 4 を設け、飾棒構成部材の後部には赤色あるいは朱色を施してなる縦板 5 が設けられ、縦板の前面には鳥の子紙を表装してなる飾板が固定され、飾板の表面には矢が上になるように、また、弓が下になるように、或いは、弓が上になり、矢が下になるようなクロス形体を保持して固定されることを特徴とする。

【選択図】 図 1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

飾枠構成部材と、該部材の内部にセットされる弓及び矢と、により大略構成され、前記飾枠構成部材の前部には透明性アクリル樹脂板によって構成される透視部を設け、前記飾枠構成部材の後部には表面を赤色もしくは朱色に施した縦板が設けられ、該縦板の前面には鳥の子紙を表装してなる飾板が固定され、該飾板の表面には矢が上になるように、また、弓が下になるように、或いは弓が上になり、矢が下になるようにクロス形体を保持して固定されることを特徴とする破魔弓飾り。

【請求項 2】

前記弓の握りは、黒色に色彩仕上げされ、握りの一端には青色のアクリル糸、青色の絹糸、青色のポリエステル糸などを巻回して仕上げる青色着色部が施され、握りの他端には白色のアクリル糸、白色の絹糸、白色のポリエステル糸などを巻回して仕上げる白色着色部が施してあることを特徴とする請求項 1 記載の破魔弓飾り。

10

【請求項 3】

前記矢の矢幹は黒色に色彩仕上げされ、矢幹の上端には赤色のアクリル糸、赤色の絹糸、赤色のポリエステル糸などを巻回して仕上げる赤色着色部が施され、矢幹の下端には緑色のアクリル糸、緑色の絹糸、緑色のポリエステル糸などを巻回して仕上げる緑色着色部が施され、前記矢の矢幹には鳥の羽根を形象し、黒色に色彩仕上げされる木製薄板製の三枚羽根が取り付けられ、前記飾枠構成部材に掛架用金具が取り付けられることを特徴とする請求項 1 記載の破魔弓飾り。

20

【考案の詳細な説明】

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、破魔弓飾りに関するものである。

【背景技術】

【0002】

正月及び五月節句に、男児の祝いに用いる破魔弓として、例えばガラスケース入りタイプのものが普及し、部屋の中の床の間などを飾り場所としている。また、破魔弓は、鎧兜を飾り主体とする五月人形平飾りとセットにして飾られている。

30

【考案が解決しようとする課題】

【0003】

しかし、上述のようなガラスケース入り破魔弓飾りは、看者に旧態依然とした印象と見飽きた感を与える等の嫌いがあった。

また、平飾りに飾付けた破魔弓は、節句後に箱の中に収納保管したり、破魔弓に付いたホコリを落としたりする等の手間や面倒を要していた。

【課題を解決するための手段】

【0004】

本考案は、上述の問題点を解決することを目的として創案された破魔弓飾りに係り、詳しくは本考案は、正月や五月節句時にこだわることなく住宅室内の壁面や長押等に掛架して掲示使用することができると共に、いつでも容易に看取することができ、斬新構造・斬新意匠にして取扱い易く工夫された破魔弓飾りの特徴とする。

40

【考案を実施するための形態】

【0005】

本考案は、飾枠構成部材 1 と、該部材 1 の内部にセットする弓 2 及び矢 a と、により大略構成され、前記飾枠構成部材 1 の前部には、透明性アクリル樹脂板によって構成される透視部 4 を設け、前記飾枠構成部材 1 の後部には、赤色あるいは朱色に表面仕上げした縦板 5 が設けられ、該縦板 5 の前面には鳥の子紙を表装してなる飾板 6 が固定され、該飾板 6 の表面には、矢 3 が上になるように、また弓 2 が下になるようにクロス形体を保持して

50

固定される。

また、前記飾板 6 の表面に固定される弓 2 が上になり、矢 3 が下になるようなクロス形体を保持して固定するような実施形態に構成してもよい。

【0006】

前記弓 2 の握り 7 は黒色に色彩仕上げされ、握り 7 の一端には青色のアクリル糸、青色の絹糸、青色のポリエステル糸などを巻回して仕上げる青色着色部 8 が施され、握り 7 の他端には白色のアクリル糸、白色の絹糸、白色のポリエステル糸などを巻回して仕上げる白色着色部 9 が施してある。

【0007】

前記矢 3 の矢幹は黒色に色彩仕上げされ、矢幹の上端には赤色のアクリル糸、赤色の絹糸、赤色のポリエステル糸などを巻回して仕上げる赤色着色部 10 が施され、矢幹の下端には緑色のアクリル糸、緑色の絹糸、緑色のポリエステル糸などを巻回して仕上げる緑色着色部 11 が施してある。

【0008】

また、前記矢 3 の矢幹には鳥の羽根を形象し、黒色に色彩仕上げされる木製薄板製の三枚羽根 12 が取付けられる。

【0009】

尚、前記飾枠構成部材 1 に掛架吊用金具（図示を省略）が取り付けられている。

【考案の効果】

【0010】

本考案は、以上説明したような形態で実施され、以下に記載されるような効果を奏する。

【0011】

飾枠内の飾板に配置される弓と矢を飾枠の前部に設けた透明性アクリル樹脂板（透視部）を透して容易に看取できる。

【0012】

また、本考案に係る破魔弓飾りは、黒色仕上げの弓の握りに青色及び白色の各着色部が顕現し、また黒色仕上げの矢の矢幹に赤色及び緑色の各着色部が顕現し、更に、矢の矢幹に鳥の羽根をモチーフとする黒色の木製薄板製三枚羽根が取り付け、しかも上記構造の弓と矢は、飾枠内に配置される飾板の表面にクロスした形態で固定する配置構成を顕現するから、従来の台部に弓矢を直立状態で飾り立てていた破魔弓飾りに比し、一段と装飾・美観の向上した破魔弓飾りを得ることができる。

【0013】

また、本考案に係る破魔弓飾りは、飾枠に掛架用金具が取り付けられているため、室内の壁面・長押等に掛架可能な破魔弓飾りとして鑑賞し使用でき、また、室内適所に定置して飾ることが可能である。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本考案破魔弓飾りの正面図である。

【図 2】本考案破魔弓飾りの背面図である。

【図 3】本考案破魔弓飾りの側断面図である。

【図 4】弓と矢の斜視図である。

【符号の説明】

- 1 飾枠構成部材
- 2 弓
- 3 矢
- 4 透視部
- 5 縦板
- 6 飾板
- 7 握り

10

20

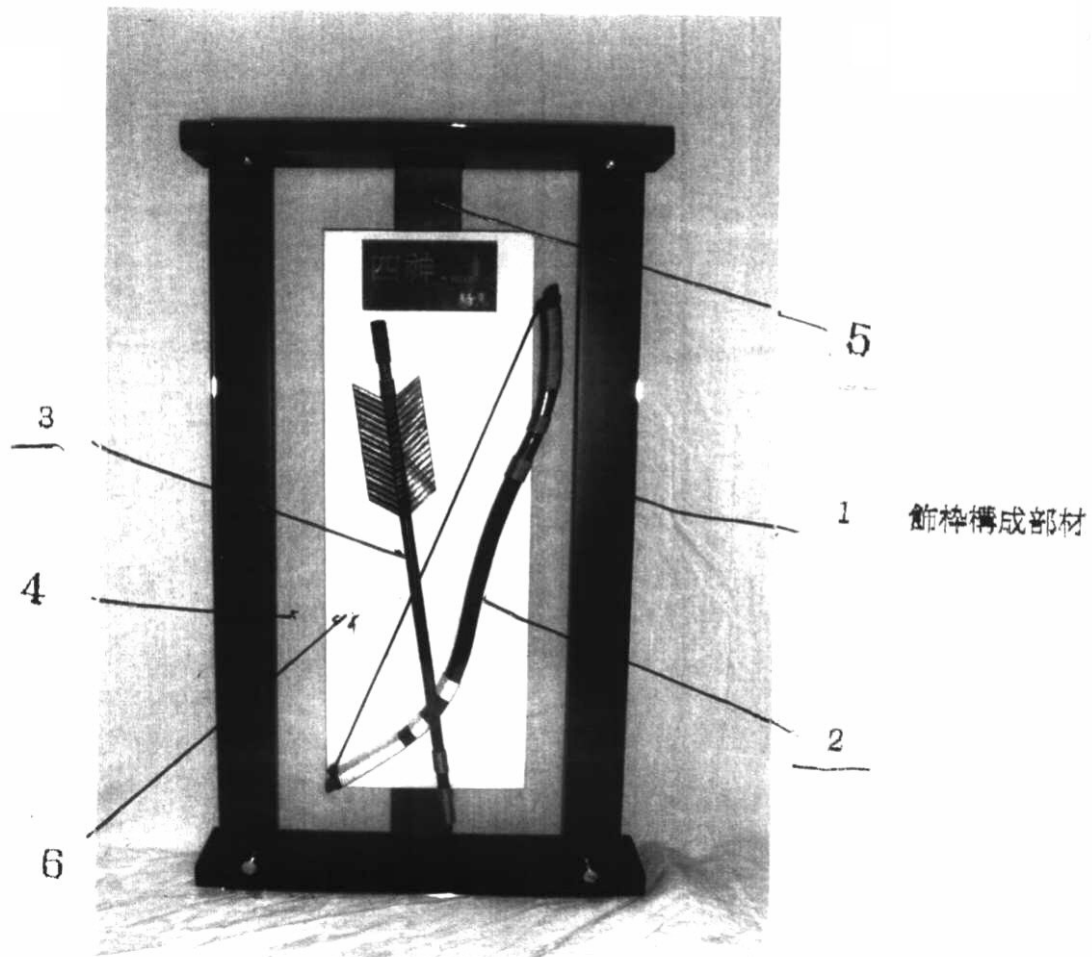
30

40

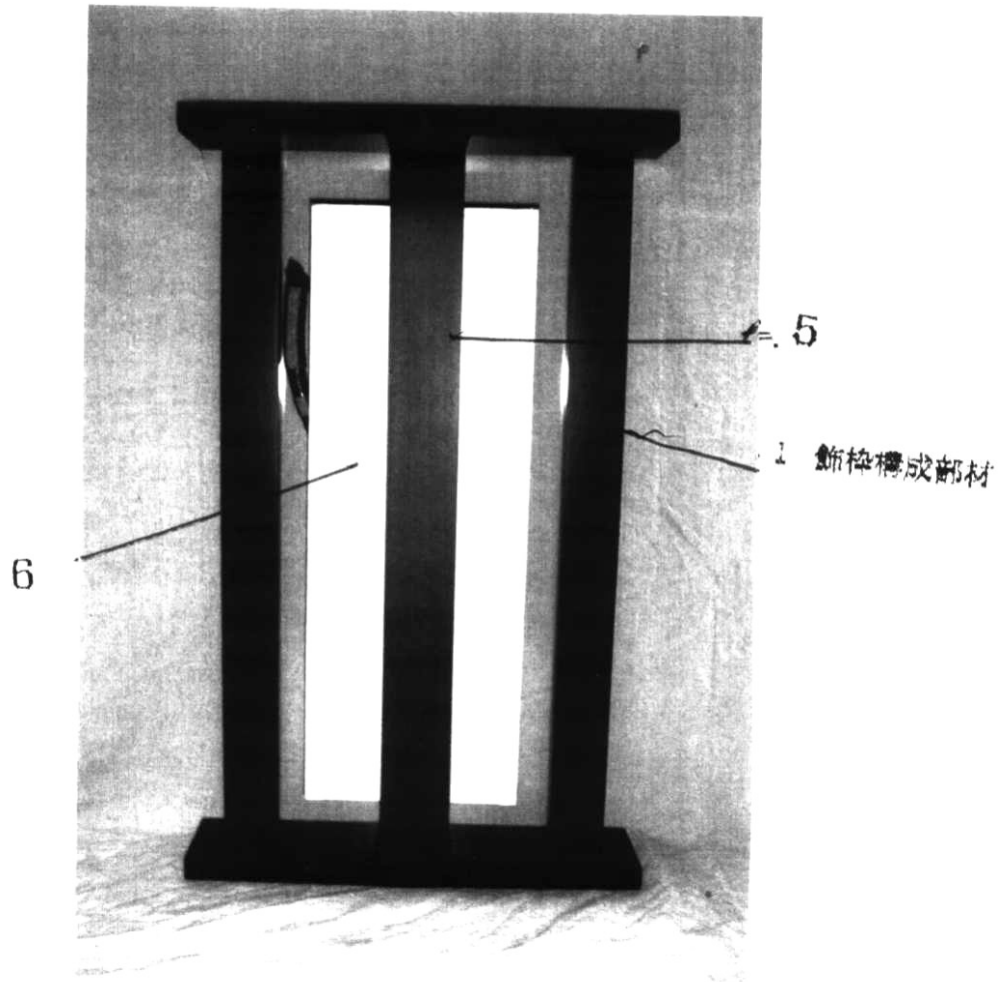
50

- 8 青色着色部
- 9 白色着色部
- 1 0 赤色着色部
- 1 1 緑色着色部
- 1 2 三枚羽根

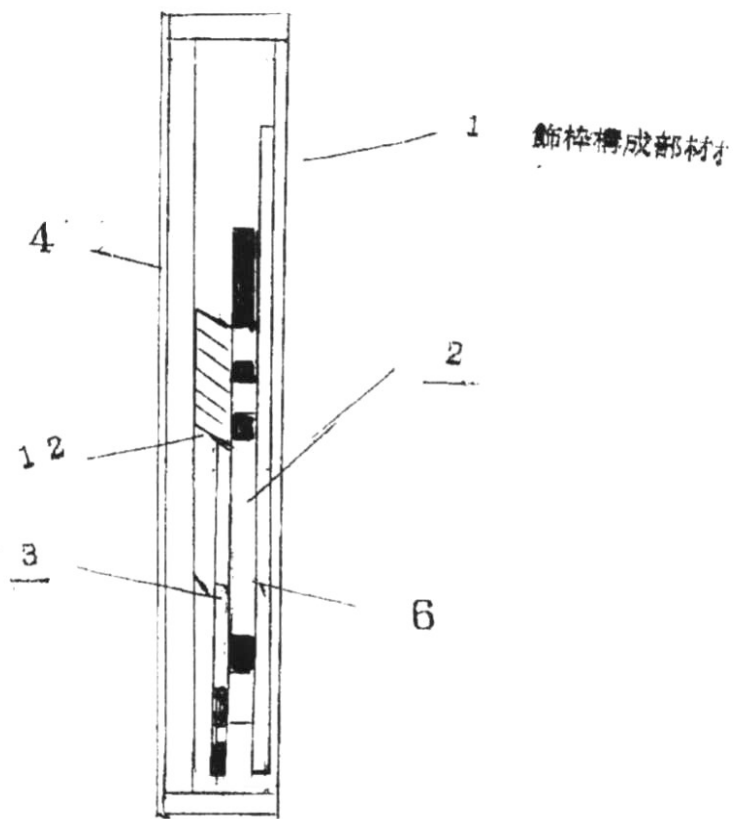
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【図 4】

